

市民と吹田市民病院をつなぐ広報誌

と も に

05

2018年
冬号



特集
吹田市民病院発
チームで取り組む
COPD診療

肺機能測定検査の様子

〔COPD〕慢性閉塞性肺疾患の意味。
もともと慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称。
タバコ煙の吸入などが原因の炎症性疾患。

市民とともに心ある医療を

地方独立行政法人 市立吹田市民病院は「市民とともに心ある医療を」の基本理念に基づき、急性期医療や高度医療、救急医療を中心に、吹田市の中核病院として、質の高い安全な医療の提供に努めています。それらの取り組みを、広報誌「とにもに」を通じて市民の皆さまにお伝えいたします。

毎年世界COPDデー イベントを開催

ギネス記録を
達成しました!



ギネス世界記録の達成など、ユニークな取り組みで啓発!

毎年11月第3水曜日の世界COPDデーに合わせて、吹田市民病院では啓発イベントを開催しています。「COPDを広く市民に知ってもらう」という目的で平成21年(2009)から、肺機能測定や呼吸リハビリ、禁煙相談、各種セミナーなどを行っております。

また、著名人を招き、公開で肺年齢を計測する講演会やホスピタル・クラウン(道化師)ショー、食と命のワークショップなど趣向を凝らしたイベントを行ってきました。中でも肺機能測定のギネス世界記録達成は内外より大きな反響がありました。

これは平成25年(2013)に万博公園にて病院スタッフなど約170人が参加し、「肺機能測定に参加した人数世界一(8時間)」を目指したものです。それまでの世界記録である南アフリカのダーバンで達成された424人を大きく上回り、1029人の肺年齢

測定を行い、ギネス世界記録を達成しました。

このイベントに参加した40歳以上の方の13.2%が気流閉塞を認める「COPD疑い」であることがわかりました。そのうちの約40%の方は非喫煙者であることから、受動喫煙を含む環境因子がこれまで報告されていた以上に影響を及ぼすことがわかり、学会や論文などで報告してきました。

参加者には「夫がヘビースモーカーなので、自分の肺が気になって」と来場される女性も多く、タバコの有害性を知ってもらう意義深いイベントになっています。



地域と手を携える「吹田呼吸ケアを考える会」

病院を飛び出して、地域へと広がるサポートの輪

呼吸器疾患の患者さまをサポートし続けるため、訪問看護ステーションや介護事業所など地域で医療や福祉、介護に携わる方と「どのようにしたら呼吸器疾患の方の息苦しさを取ることができるか」を一緒に考える勉強会です。年に2回、当院で行う呼吸リハビリテーションや実技指導、医療機器を実際に触って経験してもらうなどの企画をしています。

患者さまを現場で見ているスタッフとのネットワーク作りにより、在宅医療での患者さまの状態をフィードバックしてもらい、状態が悪くなる前に対策をとることができるようになりました。



地域で患者さまをサポートします



Information 平成30年度秋に市民病院は移転します



現在の吹田市片山町から、JR岸辺駅前にできる「北大阪健康医療都市(愛称:健都)」に移転します(平成30年度秋予定)。1月現在は病院本体(地上8階建て)の8階部分の躯体工事を進めています。市民のための総合病院として、より高度な医療を提供いたします。

とにもに 05 2018年 冬号

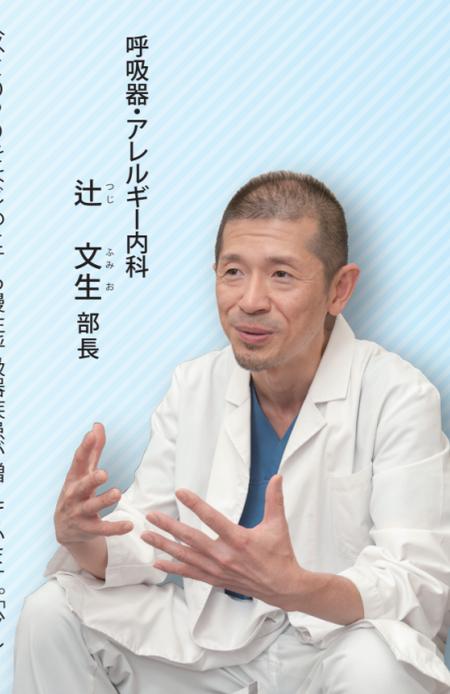
■ 広報誌「とにもに」にご意見がある方は市立吹田市民病院までご連絡ください。
編集発行 地方独立行政法人 市立吹田市民病院 広報委員会 〒564-0082 吹田市片山町2丁目13-20
TEL 06-6387-3311 FAX 06-6380-5825
ホームページ <http://www.city.suita.osaka.jp/hospital> メールアドレス shomu@mhp.suita.osaka.jp



SRCTを立ち上げたことで多職種間のつながりが深まり、毎日の仕事がいよいよスムーズになりました。そのいい雰囲気がい医療の質を生み出しているように感じています。

SRCTには医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士などが参加しています。多職種が連携しながら、各専門分野の強みを生かし、患者さまの状態に応じた質の高い治療やケア、患者教育に取り組んでいます。市内の薬剤師などに向けた吸入指導の勉強会や、訪問看護師や介護支援専門員との「吹田呼吸ケアを考える会」なども地域医療のレベルアップや地域との連携を図るための活動の一環です。また、チーム医療や地域医療とあわせて予防医療も重要であり、市民の皆さまへの啓発活動として世界COPDデーに合わせたイベントを開いています。平成25年(2013)には肺機能検査測定人数のギネス世界記録を達成し、新聞やテレビなど多くのメディアに取り上げられました。楽しみながら取り組むことも、SRCTを長続きさせる秘訣だと考えています。

今、COPDをはじめとする慢性呼吸器疾患が増えています。「少し歩くだけでも息苦しさを感ずる」という辛い症状が続くのは、肺の気管支に炎症が起こり、空気の通り道の気道が狭くなってしまっから。主にタバコが原因で起こり、一度壊れた肺は二度と元には戻りません。COPDは、医師の治療だけでカバーできるものではなく、病院内の多職種の連携に加え、地域ぐるみで診ていく体制が必要です。そこで、平成20年(2008)にSRCTを発足しました。名称に地域名を付けたのは、さまざまな活動を通じて「吹田」をアピールしたいという思いがあったからです。



呼吸器・アレルギー内科
辻 文生 部長

職種を越えて連携する SRCT Suita Respiratory Care Team 吹田呼吸ケアチーム



地域医療連携部
医療機関との連携の窓口
地域の医療機関との連携の窓口です。患者さまが自分の住む地域で、切れ目なく医療や介護サービスを受けるために、開業医さんを訪問したり、医療者向け勉強会などを開催し、密に連携を図れるように取り組んでいます。

肺機能測定検査をご希望の方は医療機関(かかりつけ医)より当院の予約が取れます。

地域医療連携部 宮本 貴至 主査



看護師
患者さま一人一人に応じたきめこまやかな指導を実施
COPDの主な原因は喫煙であるため、病棟看護師は多くの患者さまに禁煙指導を行っています。禁煙に向けたステージが一人一人異なるため、指導方法は患者さまによって変わります。スムーズに禁煙に導けるよう、看護師の指導スキル向上を心掛けています。

病棟看護師 彌榮 香子 主査



臨床検査技師
肺機能測定検査を通じて市民の皆さまへPR
COPDの啓発イベントでは、肺活量を測定する機器を用いた「肺年齢チェック」を実施しています。COPDの認知度を高めること、病気の早期発見を目的としています。実際にCOPDが見つかった方もおられますので、症状が疑われる方はぜひ検査をお受けください。

中央検査部 松本 典久 技師長



薬剤師
薬の吸入指導をきっかけに地域連携を深める
呼吸器疾患の患者さまの中には、薬の正しい吸入方法がわからず、途中でやめてしまう方が多くおられます。どの保険薬局に行っても高い水準の吸入指導が受けられるよう、市内の薬剤師に向けた勉強会を年2回開催しています。地域の医療従事者との連携を深めるきっかけともなっています。

薬剤部 本名 房美 主査



理学療法士
ノルディック・ウォーキングで楽しみながらリハビリ
COPDの患者さまは息苦しさを転倒に対する不安から運動を避けがちです。そこで安全かつ運動効果の高いノルディック・ウォーキングを呼吸リハビリに取り入れ、身体活動性の改善効果を報告してきました。今後は全国の医療機関に向けた普及活動にも取り組みたいと考えています。

リハビリテーション科 中嶋 仁 技師長



医師
医師が旗振り役に
チーム医療には「旗振り役」が必要です。SRCTでは、各部門のスタッフが個別に課題を発見し、多職種間で自由に連携しながら問題解決に取り組めるよう医師が適切な治療方針のもと、マネジメントをしています。

腫瘍内科 宮崎 昌樹 部長